

カンボジアで経済学部7学生

手作り「縁日」で“心”の支援

「現地の人々と同じ目線に立って交流を」。そんな素朴な願いを胸に、経済学部3年次生7人が2月、カンボジアの村で手作りの縁日を開いた。歌、踊り、花火、キャンプファイア……。興じる子供たちの満面の笑顔に接したメンバーは、「国際協力はお金がすべてではない。心の支援こそ大切」と話している。

訪問したメンバーは齋藤哲平さん、里吉謙一さん、波田野真衣さん、星野智也さん、大畑旭世さん、古農幸江さん、八木祐樹さん。うち5人は1年前の2月、地雷原視察のスタディーツアーで同国を訪れ、シムリアプのモンドルバイ村にホームステイをした。そこは、政府の方針により内戦の被害者が強制的に集められた

貧しい村。地域をあげての温かい歓迎を受けたメンバーは、「ぜひ恩返しを」と再訪を決意。帰国後の学内報告会(428号既報)での反響や今回同行したNGO代表の緒方由美子さんの激励も強力な後押しとなった。賛同した2学生(齋藤さん、古農さん)が加わり「日本の伝統的な祭りを催し、みんなを励ましたい」と計画。アルバイトに励み、企業を回って寄付を募り、子供たちに贈るノート300冊や菓子類750袋などを持って1年後の再訪となった。

小学校の校庭で開かれた縁日は子供たちを中心に400人が集まった。現地ボランティアの協力で焼きそばもふるまわれ、盆踊りや「ジェンカ」などのダンス大会では、ひととき盛り上がった。

そのほか小学校の授業で語学(日本語、英語)や音楽、運動も教えた。

3日間の滞在で、貧しくても生き生きと暮らす村人たちと親しく接し「与えられたものの方がずっと大きかった」(齋藤さん)と実感している。2度目の来訪となった波田野さんは「卒業前にもう一度訪ね、子供たちの成長を確かめたい」と話している。



▲日本の神社から提供された提灯も飾られ、縁日を楽しむ子供たち



▲小学校の前で、メンバー7人と子供たち

多摩区・3大学連携事業－「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地域に関する区民ニーズ調査」

商学研究所が結果報告－区民ニーズ分析を多摩区へ提出

「多摩区・3大学連携事業」の一環として、商学研究所が、多摩区役所から事業委託を受けた「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地域に関する区民ニーズ調査」の分析結果がまとまり、3月26日に多摩区役所区長室で、上田和勇同研究所長から、鈴木基允区長にA4版24ページの報告書が手渡された＝写真。



商学部の渡辺達朗・神原理・石川和男ゼミの学生が、住民にアンケートやインタビューを行い、2度の意見交換会を経てまとめられた報告書の要旨について説明を受けた鈴木区長は「これからの街づくりに生かしていきたい」と語った。

第19回東京学生映画祭の企画委員長・松山智輝さん「人気の邦画 盛り上げたい」

学生の、学生による、学生のための映画コンペ第19回東京学生映画祭で、松山智輝さん(経済3)が企画委員の代表として運営面で活躍。「若者のパワーあふれる作品をぜひ鑑賞してほしい」と呼びかけている。

同映画祭は、関東圏の大学に所属する映画制作団体から作品を募集。数次の予選会を経て、5月の本選でグランプリが決定する。全国でも最大規模の学生映画祭で、参加団体の交流が大学映画サークルの活性化につながっている。

今映画祭は、過去最高の32団体・90作品が参加。2月末の最終予選で『リエゾン』『ジローの災難』『届くなら遠吠え』など9作品が本選に勝ち残った。ゲスト審査員は人気ホラー映画『呪怨』の清水崇監督らが担当する。

伊映画『ニューシネマパラダイス』に感動。「映画好きの子役に、自分の姿を見た」と言う松山さんは、「いつかあんな映画を作りたい」と夢を描く。「学生映画の魅力は商業映画にはみられない自由奔放な発想、情熱やエネルギーが作品にみなぎっているところ。大人気の邦画を、学生の手で盛り上げたい」と力を込める。

第19回東京学生映画祭は5月26(土)・27(日)の両日、北沢タウンホール(下北沢駅徒歩5分)で。



中期留学生19人 オレゴン大とワイカト大へ

米・オレゴン大学(4/1~9/3)と豪・ワイカト大学(4/9~7/31)に中期留学する19人に、3月20日、留学許可書が渡された。

大林守国際交流センター長は「『中期留学の先』を見据え、具体的な目標を立てて過ごしてほしい。『集中する』『楽しむ』といったメリハリをつけ、充実した留学生生活を」と激励した。

中期留学生一覧

●ワイカト大学

小野 麻代(経済3)
佐俣 嘉康(経済2)
山本真由美(経営3)
東江 香織(")
吉川 絵理(商 3)
藤井 愛(")
木村 綾加(文 3)
植田麻衣華(")
土谷 純一(")

●オレゴン大学

廣瀬 夏樹(経済3)
杉本 優介(経済2)
大林 晃太(法 3)
加瀬 貴英(経営3)
埴淵 直人(商 2)
山田 歩美(文 3)
松原 大(")
中田美和子(")
井本 隆太(文 2)
朴 味和(ネット情報4)

バルセロナ大から講師 神田キャンパスで講演会

第130回国際交流特別講演会が次の通り開催されます。

テーマ＝「やさしい英語によるヨーロッパ概論」

講師＝スペイン、バルセロナ大学のジョセップ・カステージャ法学部教授(本学法学部客員教授)

日時＝5月14日から6月11日までの毎週月曜日、5回シリーズで。

時間＝18:00～19:30

教室＝神田キャンパス1号館13A会議室

学生の申し込みは国際交流事務課窓口まで。

≪New Ground—新しい見方<12>≫

「坂」

泉田 崇之(文2・ジャーナリズム研究会)

「坂」。その響きから人は何を思い浮かべるだろうか。歴史ファンなら徳川家康の”人生は重い荷を背負って坂道を行くが如し”という人生訓。スポーツファンなら箱根駅伝5区、6区の坂を思い浮かべるかもしれない。

そして生田キャンパスに通う専大生にも身近な坂がある。それが今回10号館の完成によって遠い記憶の底に埋もれてしまうかもしれない。そこで、多くの専大生が幾度となく往復してきた、あの胸突き坂について少し調べてみた。

坂の名前は…ない。一部に“心臓破りの坂”と呼ぶ人もいるが、無名坂だ。坂道沿いには我らが陸上競技部が祈願をこめる韋駄天(いだてん)を祀(まつ)った天神社や、馬の供養のための馬頭観音碑がある。

向ヶ丘遊園駅で降りて南に向かい、民家の間を進むと、まず右手に天神社がある。天神社は普通”天神様”を祀っている。なぜ生田の天神社が韋駄天を祀っているのか謎だ。単なる語呂合わせかといふかりながら、さらに坂を上ると、二つの道が出合う手前に馬頭観音碑が鎮座している。馬頭観音はインドでは馬頭の冠を戴いて衆生の煩惱を排除し、諸悪を破壊する菩薩であるが、日本ではいつの間にか馬の供養係にされてしまった。これらの誤解が生じるには長い年月が必要だっただろうと不思議の感に打たれる。さあ、この先が胸突き坂だ。

この坂は、入学試験日に大雪が降った時には受験生のためにロープを張った年もあったそうだ。しかし苦勞して上った先には、専大のキャンパスと季節によって新緑や紅葉の美しさが存在することを忘れてはいけないだろう。

そしてこれは無名坂への“頌”である。



飲酒による迷惑行為等の禁止について－学生部長 嶋根克己

昨年7月の飲酒事故以来、学生部では再三にわたりホームページや警告文にて飲酒に関する注意を呼びかけてきましたが、いまだにルールやマナーを守らない学生の行為に対して、近隣住民の方などから多くの苦情が寄せられており、誠に残念であります。

新年度を迎え、飲酒をする機会が増えることが予想されます。サークルやゼミ等のコンパや飲み会では以下のことを守り、専大生として、社会人として自覚ある行動をするように強く希望します。

1. 未成年者は飲酒をしない。また未成年者には酒を勧めない。
2. 一気飲みの強要は絶対に行わない。
3. 飲酒後は自転車、オートバイ等の運転は行わない。
4. 近隣住民への迷惑行為は行わない。

《マンガ》

フレッシュ！ウレシーナ キャンパスライフ！

(漫画研究同好会・USSA 作)

フレッシュ！ウレシーナ キャンパスライフ！ by USSA

